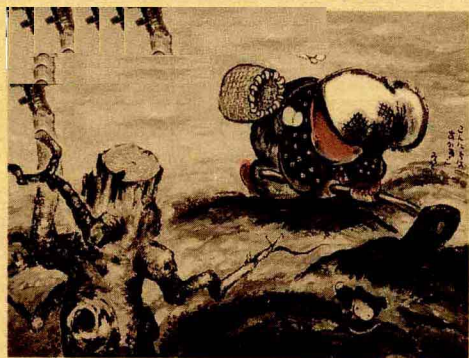


お母さん
お元気で
すか

はらみちを





お母さん
お元気ですか

はらみちを

お母さん お元気ですか

定価 二二〇円

昭和六十年六月十日 第一刷発行

著者 はらみちを

発行者 石川晴彦

発行所 株式会社主婦の友社

東京都千代田区神田駿河台二一九

郵便番号 一〇一 振替 東京二一八〇番

電話 編集 〇三一二九四一一二二九

販売 〇三一二九四一一三三三

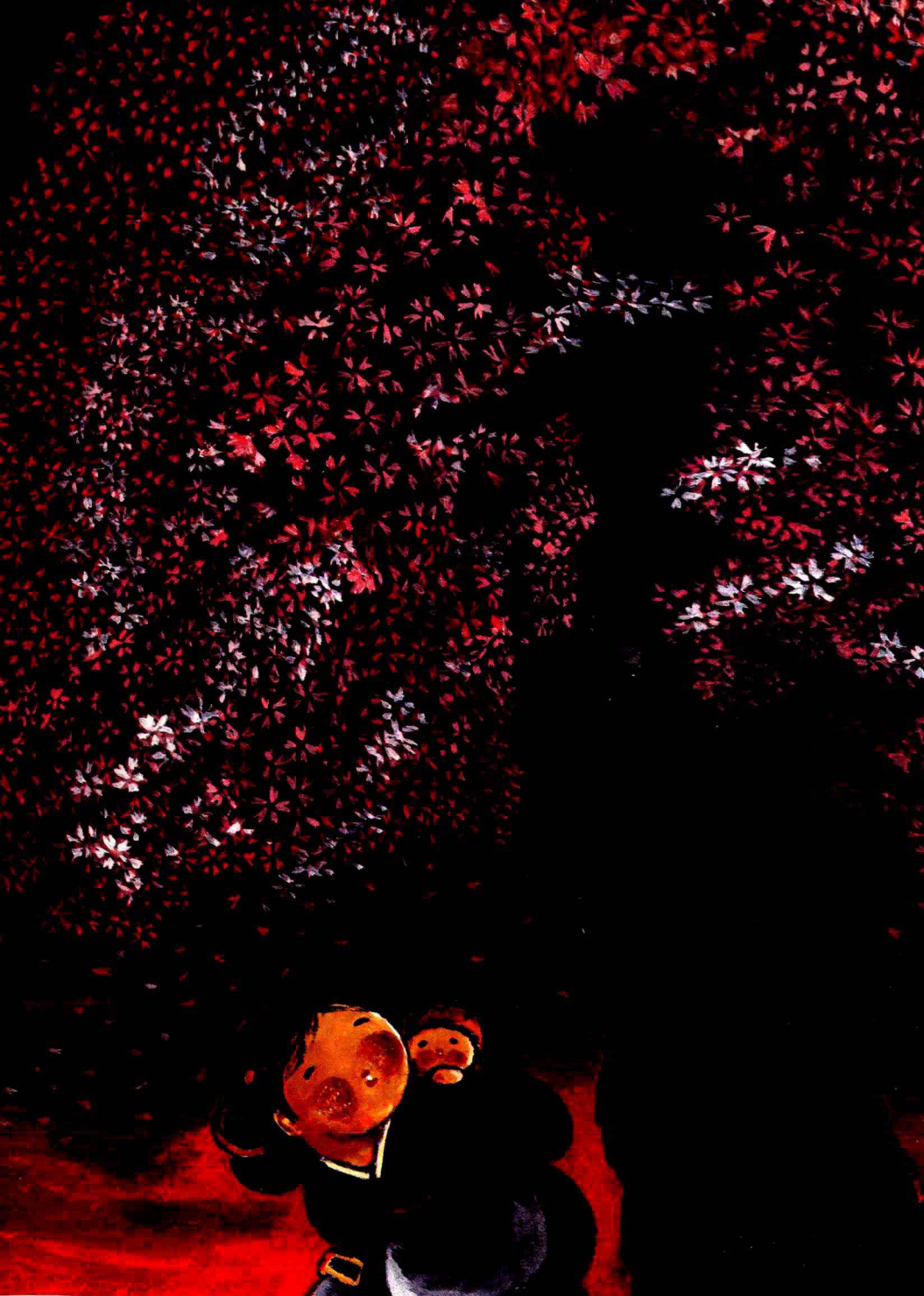
印刷所 大日本印刷株式会社

もし落丁、乱丁、その他不良な品がありましたら、
おとりかえします。

© MICHIO HARA 1985 Printed in Japan
ISBN4-07-922067-2

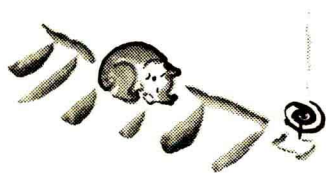
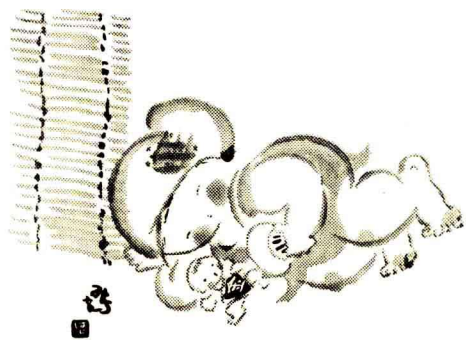








お母さん お元気ですか
目次



花だより

- その一 ● 『母をえがく』という長いおしゃべりの
カセットテープを送ったこと……………12
- その二 ● 声の便りの続き——
ボクの絵を見てオイオイ泣いた男性の話のこと……………22
- その三 ● 小学校の参観日で
お母さんにハツとしたこと……………31
- その四 ● つくしんぼとヨツちゃんたちのこと
玲子ちゃんとお花見したこと……………40

若葉だより

- その一 ● どじょうをとった話と
食った話のこと……………50
- その二 ● もんぺのお母さんに感動したという
若い女のこのこと……………59
- その三 ● ルンペンに出会って生きかた変えた話と
どうぞ来てくださーい！という社会参加のこと……………69

その四 ● 世界の不自由な人たちと
笑って泣いて感じたこと…………… 80

猛暑だより

その一 ● ぼくの絵の大好きな
女のコが自殺したこと…………… 90

その二 ● ミシンの音は去って行く響きだということと
盆踊りのこと…………… 99

その三 ● 日本は負けるんじゃないかというお母さんと
戦死した兄さんのこと…………… 114

その四 ● ピカドンで死んだ石津くんと
ボクの周辺のムゴイ風景のこと…………… 124

澄みきった風だより

その一 ● 母なる大地の
北海道のお母さんのこと…………… 134

その二 ● ウンチの話と
ボクのビイヒャラドンドンポスターのこと…………… 144

その三 ● 柿の木八年いやいや百年長生きのこと

昔、お母さんが生みの母に会った話のこと

その四 ● お母さんの育ての母の話と

先祖の古仙斎の絵のこと

166

157

木枯だより

その一 ● 哀しくも強く愛しい足音がする

可部峠物語のこと

その二 ● 生きものとお母さんのこと

その三 ● 街の秋祭りとお母さんの純朴な秋祭り

神楽舞いのこと

その四 ● コーヒー・ラブ・ステーションのこと

210 199

189 180

雪だより

その一 ● 一月十五日のおたんやのこと

尾道のお母さんのこと

その二 ● 松山のドカ雪と

相生駅の吹雪の階段登った車椅子のこと

229

220

その三 ● 学ぶという題でしゃべった

時計修理屋のことと、なんでも屋のこと……………

242

その四 ● これこそお母さんだーという

お母さんたちのおしゃべりを聞いたこと……………

252

あとがき……………

262

装丁 澤田 肇
装画 はら みちを

花だより



花だより その一

『母をえがく』という長いおしゃべりの
カセットテープを送ったこと

お母さん、お元気ですか。

この前の桜草、まだ咲いてますか。あのときいただいた古漬けとてもおいしかった。うん、ブーンと古桶の臭い匂いがしてさ、少しスツパくてうれしいねえ……食欲そそるんよ。

そよ風さん（ボクのマネージャー喜美代さんのこと）すごく漬け物好きでね。毎日お茶漬けサラサラといい音たててやってるよ。

街の漬け物は色が鮮やかでお菓子みたいに甘いから気持ちわるくてねえ……。

お母さんの漬け物食べたらもうほかのは食べられんよ。大切にしなくちゃ。

お母さん。こうして手紙書いてるとほんとうにそう思うよ。

故郷、そしてお母さん——って、いいもんだなア……いつまでもいつまでも昔のままできてつかあさい。そりゃ無理な注文やろがね。でも、近頃のお母さんを見てそよ風さんは「かわいいわね」と言ってるよ。ほんと、小ちやく丸くなっちゃってさ。八十六才ですって？　もうそんなのかなア。可憐に老いてますますイキイキしてる童女——そんな感じするんよ。

この前プレゼントした安楽椅子、うまく坐れなくてさ、「ヨッコラショッ！」と腰かけたら尻がスポンとめりこんじゃってさ、両足ブラブラ。あわてて立ち上がろうとしたら椅子がお尻にくっついて離れんのよ。そのかつこう、あんまりおかしかつたのでボクラ声たてて大笑いしちゃった。ほんとに安楽椅子が大きすぎて深すぎて安楽じゃなかった。

そうそう、あの日、みちをと喜美代さんが来るといつて、お母さんったらすぐハッスルしちゃってさ、部屋のじゅうたんに水をジャージャー流してせっけんで洗ったんだってね。

ボクラが着いたとき、弟の八朗がビチョビチョのじゅうたん拭いてた。お母さんの着物の裾、ずぶぬれやっただけど風邪ひかなかつたですか？　八朗はぞうきんしぼりながら苦笑してましたよ。

「お母さんったら、二人が来るといってもハッスルするんじゃ」

ボクは、ずぶぬれになってじゅうたんを洗うそのマリのような年老いた母に感動したね。息子を迎える母という喜びを全身にあらわしてた。

ありがたいことですね。胸がキュンと痛くなりましたよ。

お母さん、今日はね、ボクの声のお便りですよ。ホラ、母の日に天満屋百貨店の催場でき、しゃべったテープ、孫の雄一朗くんにセットしてもらって聞いてくださいね。

それではみっちゃんの題して『母をえがく』名(迷)講演、はじまりはじまり……ハイ、ポ
ン!!

——えー、ご紹介いただきました、はらみちをです。平がなで、は、ら、み、ち、を、と書
きます。

ボクんちの前の道路ぎわに看板みたいな表札を立てております。通りがかりの小ちゃい子、
「ママ！ はらみちをつて、ナーニ？」

若いお母さんはめんどくさそうに、

「はらぐすりのことでしょー」(笑い)

ボクはそれを聞いてがっかりしました。ボクのこと、近所の人ゼンゼン知らんのよね。落ち
こんでいたら、ある日知らんお婆ちゃんがヒョッコリボクのアトリエをのぞいてね、貼ってあ
る絵を見てニコニコ。フーン、フーンとしきりにうなずいてるの。